泉野図書館×金沢市スポーツ事業団　コラボ企画

スポーツ小説フェア

おすすめ本の一部をご紹介しています。

金沢市図書館所蔵

	タイトル【種目】	作者	出版社
パラスポーツ	パラスター 【車いすテニス】	阿部暁子	集英社文庫

「たーちゃんはパラリンピックに出るくらいの、最強の車いすテニス選手になって。わたしは、たーちゃんのために最高の車いすを作るから」
車いすメーカーに勤務する山路百花が主人公の「パラ・スター　Side 百花」と車いすテニスプレーヤー　君島宝良が主人公の「パラ・スター　Side 宝良」の2部構成の車いすテニスを主題としたスポーツ小説です。百花は中学で同級生の女子たちにいじめられているところをテニス少女の宝良に助けられたことから友人となる。しかし、高校生の時、宝良は交通事故で脊髄を損傷し、車いす生活となった。
百花はすべてを閉ざしてしまった宝良を立ち直らせるため、福岡で開催される車いすテニス大会ジャパンオープンに誘う。これが新たな運命の始まりになった。親友のために最高の車いすを作りたいと車いすメーカーに就職した百花だが、様々な経験を経て、自分がなすべき仕事の意義を見出していく。
一方、宝良は東京パラリンピックを目指して車いすテニスプレーヤーとして活躍するが、ある時期からの不調にもがき苦しむ中で新たな自分を見出していく。ふたりは、いつかお互いの目標が交わる日を夢見て、仕事にテニスに情熱を注いでいく。この物語を通じて、障がいを背負い、車いすユーザーとなった人たちの心情や苦悩なども描かれていますが、それ以上にひとりの人間としてどう生きていくかを考えさせられるとても素敵な小説です。ぜひ、中学生や高校生に読んでもらいたい2冊です。

パラスポーツ	左手一本のシュート：夢あればこそ!脳出血、右半身麻痺からの復活 【バスケットボール】	島沢優子	小学館文庫

「マサッ!マサッ!わかるか、マサッ!」その言葉が聞こえたのを最後に意識は遠のいた。次に目覚めたとき右手、右足は動かなかった。小学校、中学校とバスケットボールで活躍しスーパー選手だった田中正幸は、山梨県の強豪校　日川高校への入学を控えた4月3日に10万人に一人と言われる脳血管異常による脳出血で倒れた。正幸の入学を機に全国出場を狙う日川高校バスケットボール部顧問の古田先生を始め部員たちは大きなショックを受けた。何とか命は守ったものの右半身まひの障害を負った正幸だが、持ち前の素直さと負けん気の強さで苦しいリハビリを乗り越えていく。入学するはずだった高校は1年休学し、心身の回復に全力を注ぎ、復学してからはバスケットボール部に入部したものの通常の練習には参加することができず、裏方として選手たちを支えていた。それでも、バスケットボールに対する愛情は変わらず、今できる練習をコツコツと続けていた。3年生になり最後の公式戦インターハイ予選の前、顧問の古田先生からユニフォームを着てベンチ入りを打診される。「インターハイは正幸を出す」古田先生の言葉に部員たちの心は一つになった。その日から、シューターとして活躍していた正幸にシュートを決めさせるための「正幸フォーメーション」の練習が始まった。左手一本でのシュート。インターハイ予選で優勝して、沖縄インターハイへ正幸を連れていく!そして、インターハイ予選2回戦、残り時間3分32秒、ついに正幸は高校で初めてのコートに立った。あの日倒れてから1167日目にひとつの夢が叶った。夢はあきらめなければ叶う。「いつか　やがて　きっと」

パラスポーツ	太陽ときみの声 【ブラインドサッカー】	川端裕人	朝日学生新聞社

都川高校サッカー部2年生の光瀬一輝は相棒の鈴木丈助と抜群のコンビネーションで活躍していた。3年生が引退し、一輝はキャプテンとなり「明るいサッカー部」を目指して楽しくサッカーに打ち込んでいた。ところが、左目の視力低下が発見される。原因不明の病状に治療を試みるも視力はどんどん低下し、左目だけでなく右目の視力の低下も始まった。今まで見えていたものが見えなくなっていく。そしてすべてを賭けていたサッカーもできなくなってしまう。不安と恐怖とが一輝を襲い学校に行くこともできなくなってしまう。ある日、一輝をいつも気遣い、励ましている同級生の佐藤春名のいとこの佐藤夏生に出会う。夏生も中途失明者だった。しかも「ブラインドサッカー」選手である。ようやく見つけた自分の居場所。「声って光るんだよな」。暗闇の中に光を与えるものは「声」。一輝は新しい世界に飛び込んでいく。もう一度輝くために。

	タイトル【種目】	作者	出版社
パラスポーツ	サッカーボールの音が聞こえる 【ブラインドサッカー】	平山 譲	風詠社

この物語は、ブラインドサッカー元日本代表の石井宏幸さんを主人公としたノンフィクション小説です。石井さんは、2019年に駅のホームから転落し、電車と接触して亡くなりました。石井さんは、網膜剥離で右目の視力を失い、さらに緑内障によって左目の視力も失い、中途失明者として生きる気力もなく日々を過ごしていました。大好きだったサッカーからも自ら遠ざかっていましたが、たまたまインターネットで「ブラインドサッカー」を知ります。日本ではまだ全くなじみのなかったブラインドサッカーの体験会に参加したことで、再びサッカーへの情熱を取り戻します。そして、視覚障害者でもグラウンドを思いっきり駆け回りボールを追いかけることを楽しめるブラインドサッカーの普及に尽力しました。失明による苦悩の日々から、新しい生きがいを見出し障害を持った人でも人生を楽しめるキッカケを作った石井さんの情熱はこれから先も受け継がれていきます。（装画　高橋陽一　装幀　横川卓也　提供　風詠社）

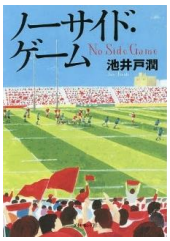
パラスポーツ	風が吹いたり、花が散ったり 【視覚障がい者マラソン・伴走者】	朝倉宏景	講談社

19才の亮磨は、視覚障害のある市民ランナー さちの依頼を受けてフルマラソンの伴走者になることを決意した。過去に傷を持ち、居酒屋でバイトしながらも自分の存在を認めることも苦痛な亮磨だったが、さちの目として走りたいと願った。もう一人の伴走者の廉二の厳しい特訓を受けながら走り方を身につけていく。一方、バイト先の居酒屋では、面倒見の良い社長によって引受けられた傷を持った人たちが働いていた。様々な人間関係のなかで、亮磨は苦悩し、時には投げ出し、心は疲弊していく。どうしてこんなに不器用な人たちばかりなのか、どうして不器用にしか生きられないのか。亮磨は、さちの目となりゴールへと導くことができるのだろうか。不器用ながらも人は成長できる。きっとあなたの勇気となる一冊です。

パラスポーツ	片翼チャンピオン 【ゴルフ、ボッチャ、バスケットボール】	平山 譲	講談社文庫

脳卒中、毎年30万人近くが発病し、約半数が死に至る。一命をとりとめたとしても多くの人に重い障害が残る。この物語では、突如脳卒中に襲われ、半身麻痺となった3人のその後人生を描いたものである。
重い後遺症のため、昨日まで普通にできていたことが介護なしではできなくなる。歩行、食事、排泄、入浴、着替え、そしてスポーツも。いっそのこと死んでしまえば良かったと本気で考えるくらいの絶望に襲われる。悩みや苦しみ、あきらめに押しつぶされそうになりながらも、家族や友人の支えによって自分の境遇を受け入れていく。何一つ満足にできない自分でも、生きる希望にスポーツがあった。障害を持ちながらでも少しずつスポーツに打ち込み、自分の存在価値を見出し、生きがいを手に入れる。あきらめないこと、それだけが生きる力になる。

ラグビー	ノーサイド・ゲーム 【ラグビー】	池井戸潤	ダイヤモンド社



トキワ自動車 経営戦略室次長の君嶋隼人は、滝川常務が進める大型企業買収に反対し、横浜工場総務部長へ左遷される。慣例で総務部長がトキワ自動車のラグビーチーム「アストロズ」のゼネラルマネージャーを兼務することとなっていた。ラグビーなど全く関心のなかった君嶋だが、チームの維持のため毎年16億円も投入されている現実に経営の観点から問題を意識し始める。低迷し続けるアストロズを立て直すためゼネラルマネージャーとしてあらゆる難敵に立ち向かう。企業チームとしての存在意義を求め続け、ラグビーを愛する者たちの未来を繋ぐために君嶋は戦う。
池井戸作品らしく、即座に引き込まれ期待を裏切らない展開に胸が躍り、感動が駆け抜けます。

ラグビー	二度目のノーサイド 【ラグビー】	堂場瞬一	小学館

実業団ラグビーチーム武蔵野電産ラグビー部は不況の影響を受け、廃部になった。
自分たちのラグビーができず同点でのくじ引き負けとなった最後の試合から5年が経つが、当時選手だった桐生は35歳になった今も中途半端な気持ちが燻り続け新しい一歩を踏み出せないでいた。そんな時、当時マネージャーを務めていた石川が亡くなった。当時のメンバーはそれぞれ別の道を歩んでいたが、葬儀のため5年ぶりに顔を合わせた。「あの試合、もう一度やってみないか」。あの日と同じ場所、同じメンバーで決着をつける。桐生は、かつての仲間たちに声をかけ始めるが、それぞれの事情があり拒む者たちを説得できずにいた。果たして、再試合は叶うのか。もう一度、本当の自分と向き合い、プライドを取り戻すことができるのか。ラグビーという固い絆で結ばれた男たちの人間ドラマ。

	タイトル【種目】	作者	出版社
ラグビー	虹を蹴る 【ラグビー】	せひらあやみ	集英社オレンジ文庫

7年物の彼氏に捨てられたあげく派遣切りにあった瑞希は、倒れた母に代わって母が寮母を勤める央学高校ラグビー部寮「白虹寮」の臨時寮母となった。父が監督を務める央学高校ラグビー部は、かつてはラグビー強豪校だったが今や部員も足りず、勝ちなしの状態だった。これまで、父への反発心からラグビーには全く興味がなかった瑞希だが、天才肌だが部内で浮いている存在の逸哉が蹴った虹の弧を描くような美しいロングキックを見て彼のことが気になり始める。初めは全くやる気のなかった瑞希だが、選手たちのことが少しずつ分かってくるにつれ、央学高校ラグビー部を応援したい気持ちが強くなっていった。そして、いつしか「花園出場」を目標に瑞希も選手たちもラグビーに懸ける思いが高まっていく。葛藤や迷い、ラグビーへの情熱で心が揺れる思春期の選手たち、そして央学ラグビー部を想い心から応援する瑞希。ラグビーが教えてくれた色んな想いを楕円形のボールに乗せて、選手たちはパスを繋いでいく。

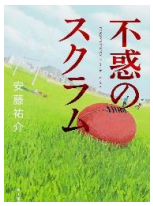
ラグビー	この風にトライ 【ラグビー】	上岡伸雄	集英社

いたって普通の小学5年生の治生は勉強も運動もできる賢介と同じマンションに住んでいる。クラスでは、賢介が始めた女子へのいじめがはやっていて、治生もなんとなくそのいじめに付き合っていた。6年生になって、すごく大男の熊沢先生が担任としてやってきた。ラグビーをやっていた先生は体育の授業で「タッチラグビー」を始めた。最初はしぶしぶやっていた治生たちだが次第にラグビーの楽しさに惹かれていく。ラグビーの精神をもとに先生は色んな大切なことを子どもたちに教えていく。自分の体で汗をかく、自分の体で痛い思いをする、それを脳に刻み込むことによって人の痛みを知る。ラグビーを通じて心がつながっていく。子どもたちに伝えたいものがこの物語にあります。

ラグビー	北風　小説　早稲田大学ラグビー部 【ラグビー】	藤島　大	集英社文庫

福島の不良少年　草野　点（トモル）は、高校でラグビーに出会い、早稲田大学に入学する。行きつけの食堂で早稲田大学のラグビー部の1年生に出会い、再びラグビーを始める。日本一を目指す早稲田大学ラグビー部の練習はその苛酷さゆえ逃げ出す者も少なくない。必死で食らいつく点は、同級生のライバルには負けたくない一心で練習に励む。ここだけが自分の居場所であり、ラグビーだけが自分自身を何者であるかを証明するものだ。「意識」「緊張」「ベストの限界を知る」、脈々と受け継がれてきた早稲田ラグビーの本流を描き、伝統の赤黒のユニフォームを身につけるべくレギュラーを争う誇り高き男たちのラグビー青春小説です。

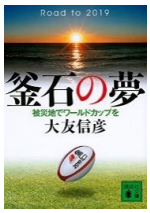
ラグビー	不惑のスクラム 【ラグビー】	安藤祐介	KADOKAWA



死に場所を求めてさまよい歩いていた丸川の足元にラグビーボールが転がってきた。中高年ラグビーチームが練習する河川敷で、丸川は鮮やかなドロップキックを放つ。「人数不足だから」と無理やりチームに勧誘され、少しずつ仲間と心を通わせていくが、彼の秘密がチームにさざなみを起こし…。いくつになってもひとは悩み、闘い、成長していく。熱い大人の青春小説です。

ラグビー	スクール・ウォーズ　落ちこぼれ軍団の奇跡　【ラグビー】	馬場信浩	光文社文庫

1984年にドラマ化された「スクール・ウォーズ」の原作です。
落ちこぼれ軍団の伏見工業高校ラグビー部が、元オールジャパンのフランカーだった山口良治監督のもと、わずか7年で全国優勝を成し遂げるまでのストーリーです。京都府高校総体予選で花園高校に112対0の大敗を喫したことの悔しさをバネにして「打倒！花園高校」を目標に練習を重ねるがなかなか勝つことができない。選手たちは厳しい練習に耐え、花園高校を破り全国大会出場を果たす。そこには、さらに強豪チームが待ち受けていた。ついに、花園ラグビー場での全国大会の決勝までたどりつく。相手は、強豪、大阪工大高校。これまで公式戦で一度も勝ったことのない相手。一万六千人の観客の歓声が花園ラグビー場を揺らす。
約60ページにわたる、決勝戦の試合描写は圧巻！手に汗握る熱戦が頭の中で繰り広げられる。
「信は力なり」若き高校生たちのラグビーに賭ける青春を描く。

	タイトル【種目】	作者	出版社
ラグビー	Go Forward！ 櫻木学院高校ラグビー部の熱闘 【ラグビー】	花形ミツル	ポプラ社
		就職に失敗したラグビー名門大学のラガーマンだった酒田は恩師の紹介で櫻木学院高校の臨時体育教師として赴任する。若くて派手だが、理事長である美日子からラグビー部の創設と花園予選ベスト4入りを命令される。部員集めに必死になる酒田だったが、集まった部員はラグビー初心者どころかひとクセもふたクセもある生徒たちばかりであった。ラグビー合宿の聖地、菅平での激しい特訓を経て、選手たちの意識は変わっていく。誰もが持っている自分の弱さや劣等感を、ラグビーにひたむきに取り組むことによって自分の殻を破っていく選手たち。ラグビーはひとりではできないスポーツ。自分の前には仲間がいて、自分のうしろには仲間が走っていると信じていれば、何も恐れることはない。個性豊かな登場人物たち、ラグビーへの情熱、仲間との絆を爽やかに描く青春ラグビー小説。読後の爽快感がハンパない！前向きな気持ちがフツフツと湧きあがります！Go Forward！前へ！
ラグビー	10（ten）俺たちのキックオフ 【ラグビー】	堂場瞬一	PHP研究所
		大学ラグビーで強豪チームとして常に勝ち続けることを義務付けられている選手たち。しかし、それは選手の個性や自由なプレーと引き換えの選択であった。監督が急死し、新監督と選手との確執によりチームは空中分解寸前。かつての監督の本当の気持ちは。彼らが本当にやりたいラグビーとは。ラグビーを愛する男たちの熱い戦いに心が熱くなります。
ラグビー	セブンズ！ 【ラグビー】	五十嵐貴久	KADOKAWA
		岩手県釜崎市、市民スポーツ課職員の奥寺浩子は女子ラグビーのトップ選手だった経験を買われ、岩手県代表の女子ラグビーセブンズチーム「岩手ブロッサム」の監督に就任する。しかし、東日本大震災で失った希望を県民に取り戻すため、目前に迫った岩手国体で優勝することを目標に選手の育成に励んでいたが、チームはまとまらず選手は次々と辞めていった。浩子は、選手集めに奔走しながらも、残った選手たちにハードな練習を課す。あまりの過酷さに浩子に対する不満は募るばかりだった。そんな中、浩子の妹の泉がブロッサムに加入するが、これまでの泉のチームへの言動に対して選手たちから大きな反感を買う。浩子にとって、何としても国体優勝を勝ち取るためには泉の力が必要だった。大会が近づくにに連れ、練習のハードさは増していく。選手たちは限界だった。そして、いよいよ国体が開幕する。女子ラグビーとはいえ、男子にも負けないスピード感や迫力をもって勝負に挑む選手たちの姿に感動を覚える。泥にまみれ、タックルを受け、満身創痍になりながらも、なぜ戦い続けるのか。「ラグビーが好きだから」。強き女性たちのラグビーに賭ける熱い情熱に心が溶かされます。
ラグビー	釜石の夢～被災地でワールドカップを～ 【ラグビー】	大友信彦	講談社文庫
		鉄と魚とラグビーの町、岩手県釜石市。2011年3月11日、大きな揺れと津波に飲み込まれ壊滅的な被害を受けた。釜石市は、かつて新日鐵釜石ラグビー部が全国制覇7連覇を成し遂げたことによって市民のラグビーへの思いは強かった。震災により、何もかもを失った町に再び夢と希望を取り戻すために必要なものは何だろうか。「釜石でワールドカップできませんかね」、そんな小さなつぶやきが始まりだった。しかし、復興の目途も立っていない、家も家族も失った人たちは明日のことも分からない。ましてや人口3万人程度の釜石には、会場にできるスタジアムもない。だが、被災した人たちには夢が希望が必要だった。未来に向けた復興のシンボルとして。「釜石といえばラグビー」、多くのラグビー関係者が釜石の、そして東北の復興のために、そしてワールドカップ誘致のために動きだす。2015年ラグビーワールドカップ日本大会開催地決定までを描いたノンフィクション。2019年、見事に立ち直った釜石でラグビーワールドカップが開かれる。
アメリカンフットボール	俺はどしゃぶり 【アメリカンフットボール】	須藤靖貴	新潮社
		母校の高校で教鞭をとる吾郎は、大酒飲みで体育会系のフットボーラーだ。高校の部活動としては数少ないアメリカンフットボール同好会を立ち上げるが、集まったメンバーはおよそスポーツとはかけ離れた連中ばかり。もちろん、全員初心者だ。流した汗は裏切らない。タッチダウンを奪うまであきらめない。戦術のスポーツと言われるアメリカンフットボールの魅力が詰まった汗と涙と笑いと友情の物語。読んで元気になれる青春小説。

	タイトル【種目】	作者	出版社
野球	晩夏のプレイボール 【野球】	あさのあつこ	毎日新聞社

「甲子園」、球児なら誰もが一度は憧れる最高の舞台。この本は、野球、甲子園に人生のひとときが触れあう人間模様を描いた十篇の物語が収められています。投げて、打って、走って、捕って、野球には言葉では言い尽くせないほどのおもしろさがあり、プレーする者はもちろん観る者も魅了します。その反面、勝者と敗者、歓喜と落胆、勝負の世界だからこその相反する感情が存在する世界でもあります。
十篇の物語はすべて野球を題材としながらも、どこか切なさを感じさせ、秋の夜にゆっくりと読んでいただきたい一冊です。

野球	ラストダンス 【野球】	堂場瞬一	実業之日本社

ドラフト2位指名だが一軍と二軍を行ったり来たりのキャッチャーの樋口、ドラフト5位指名だがスター選手にのし上がったピッチャーの真田。ルーキーの頃に一度だけバッテリーを組んだことのある二人はともに40歳となり、引退を意識するシーズンとなった。そんな中で浮上した樋口の二軍監督の話。現役を続けるか引退して二軍監督になるか揺れ動く樋口だが、チームは調子が良くシーズン終盤には優勝争いに絡んでいく。とにかく、打者との駆け引きや選手の心理描写が素晴らしく、まるで目の前で試合が繰り広げられているかのように試合シーンが頭に浮かびます。また、堂場作品の真髄でもある、男同士の掛け合いが物語を大人らしく彩っています。次の展開が気になるため、どんどん読み進めてしまう作品です。

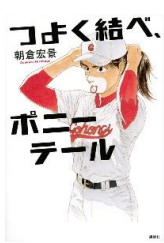
野球	ザ・ウォール 【野球】	堂場瞬一	実業之日本社

前作「ラストダンス」でリーグ優勝を飾ったキャッチャー樋口は、その後、監督に就任するがスターズはIT会社に買収され大リーグの野球を目指す沖がオーナーとなり、樋口は首になった。樋口の退団後、チームはBクラスへ転落し不振が続いていた。そして5年後、スターズ本拠地の新球場「スターズ・パーク」が完成した。そのシーズンが始まる間際に樋口は再び監督を要請される。自分を首にした沖がなぜまた監督を要請するのかいぶかりながらもその要請を受ける。オーナーとして金は出さないが、沖のチームへの口出しは次第にエスカレートし、選手たちにも影響を及ぼす。野球をエンターテイメントとして観客が埋まることだけを重視する沖と、限られた選手を巧み使い勝利を目指す樋口との対立が続く中シーズンは進んでいく。これまでにないくらい独特の形をした新球場での戦い方を築き上げてきた樋口らは、Aクラスに浮上し、優勝争いに入っていく。相変わらずの白熱した試合描写に読み進めるのを止めることができません。読みごたえは抜群、野球好きでなくても楽しめる一冊です。

野球	大延長 【野球】	堂場瞬一	実業之日本社

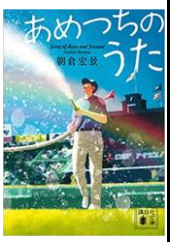
「大延長」といえば、石川県民にとっては昭和54年夏の「星稜対箕島」延長18回ですが、こちらも高校野球、甲子園決勝での延長再試合の物語です。野球の名門私立校と初出場の公立進学校、監督ふたりは大学野球でバッテリー、他にも両チームには因縁の人間関係があるのですが、試合のなかで変化していく登場人物の心理と緊迫する試合の描写が胸に迫ります。

野球	つよく結べ、ポニーテール 【野球】	朝倉宏景	講談社



日本プロ野球、史上初の女性投手となった鳥海真琴は1点リードで迎えた最終回のマウンドに登場した。子どものころから野球が好きでプロ野球選手になるのが夢だった。少年野球チームでは男の子を相手に打ち取る快感を覚えつつあった。中学生になり、女性としての体の変化や男子との体格差が目に見えて現れてきて、力で抑えるピッチングの限界を悟りサイドスローに転向した。高校に進学し、野球部に入部するも男子との差をますます感じるなか、中学からの同級生で正捕手の君澤龍也との投球練習だけが幸せだった。しかし、真琴の身に思いがけない不幸な事件が襲いかかる。一度は野球から離れた傷心の彼女が祖父に連れられて来たのは女子硬式野球チームの練習場だった。再び野球への気持ちを取り戻し、夢に向かって立ち上がる。男社会の野球という世界に、悩み、苦しみながらも野球への情熱を胸に、両親、親友、チームメートに支えられながら夢に向かって投げ続けるひとりの少女の物語。

	タイトル【種目】	作者	出版社
野球	あめつちのうた 【野球：グラウンド整備】	朝倉宏景	講談社文庫



”神整備”として知られる高校野球の聖地・甲子園球場のグラウンド整備を請け負う職人集団「阪神園芸」に高校卒業後に入社した雨宮大地。運動神経ゼロが故、かつて野球選手だった父とは上手くいかず、野球センス抜群の弟・傑にも引け目を感じて家族から浮いた存在だった。高校野球部マネージャーとして、甲子園出場を果たしたが一回戦敗退。父に認められたい一心でグラウンドキーパーになるため甲子園に戻ってきた。失敗続きの大地にいつも辛く当たってくる一つ先輩の元甲子園優勝投手の長谷騎士。甲子園出場時のピッチャーだった一志との再会やビールの売り子で歌手を目指している真夏との出会い。グラウンド整備の奥の深さを感じるほど、不安、焦り、無力感に押しつぶされそうになる大地。
みんな不器用だった。みんな必死にもがいていた。でも、不器用でも必死に前に進めば自分の未来が見えてくる。「雨が降るからこそ、地面は固まる」「何度でも、何度でもな」グラウンドも人の心も同じだと知る、青春お仕事ストーリー。

サッカー	銀河のワールドカップ 【サッカー】	川端裕人	集英社

元Jリーガーの花島勝はサッカーから離れ失業中。そんな時に公園でものすごいプレーをする小学生の三つ子に出会う。巧みなパスワークやドリブルで得点を重ね、とても小学生とは思えないプレーに目を奪われる。思いもよらずコーチを引き受けることになった花島は予想だにしなかった世界に導かれていく。
物語は、指導者目線での描写も多く、疾走感のある試合描写ではサッカーのダイナミズムを上手く表現しています。これまでのサッカーの常識を超えたストーリーに新たな魅力を発見できます。

テニス	センターコート 【テニス】	中庭球児	幻冬舎

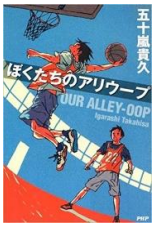
大学3年生の中井貴文は、長身に精悍なマスク、天才テニスプレーヤーとしてテニス界注目のプリンスだった。中井は、大手OA機器メーカーがスポンサーで後にATPツアー大会となるオープン大会に臨んだ。テレビ局からも注目され、「この大会で優勝、晴れてプロ契約」と見込まれるほどだった。もちろん、決勝まで順調に勝ち上がる。決勝の相手は、旧チェコスロバキア出身のエミール・カラス。中井は、完全にカラスのことを舐めていた。試合は中井有利に進むが、勝利目前で、観客からのプレッシャーにより、まさかの敗退。この試合を最後に中井はテニス界から姿を消した。19年後、中井はあの試合でスポンサーだったメーカーの倉庫番として勤務していた。40歳の中井は職場にもなじめず不貞腐れていた、横柄であった、生意気であった。しかし、上司の手引きで入会したテニスクラブで中井の運命を変える人に出会ってしまった。上下巻の長編テニス小説です。しかも主人公は40代のオジサン。オジサンになっても夢を見てもいいのか、夢を追いかけてもいいのか。すべてのオジサンたちの勇気と希望が詰まった物語です。

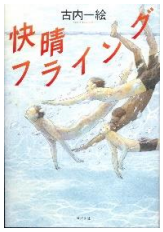
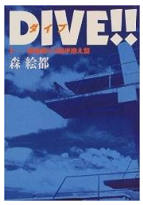
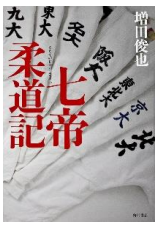
テニス	熱風 【テニス】	福田隆浩	講談社

聴覚に障害を持ちながらもテニスに燃える中学生の孝司。態度が悪く挑発的な中山と出会い、コーチの一存でペアを組まされ試合に出ることに。性格もプレースタイルも全く違う二人は反発しながらも本気でぶつかり合い厳しい練習を重ねていく。最後の試合シーンでは、汗をたらしながら体力の限界まで必死にボールに食らいつくふたりの姿に気持ちが高ぶります。

テニス	オン・ザ・ライン 【テニス】	朽木　祥	小学館

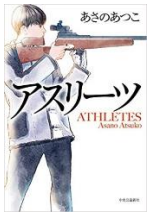
「おい、硬式庭球部に入ろうぜ」。高校入学早々、前の席の羽鳥貴之に声をかけられた。超体育会系なのに活字中毒の日高 侃（カン）は、どうしようか煮え切らなかったが、貴之に誘われるまま入部する。球を打つ心地よい感触に、いつしかテニスに夢中になっていた。侃はどんどんテニスが好きになっていった。この楽しい時間がいつまでも続くと思っていた。あの事故が起こるまでは。貴之が消え、侃は自分を赦すことができず、学校も休み、テニスも辞めてしまった。希望もなくなった侃は、島暮らしの祖父のもとに身を寄せる。そこには、小さな子供たちが侃に懐き、島の人たちの温かい心で侃の心は少しずつ癒されていった。ある日、貴之から手紙が届く。「俺に会いたかったら来い」。侃は島から戻ることを決めた。いつまでも続くと感じていた青春時代。一度は消えたふたりの友情が少年たちを大人にさせる。明日への希望の物語。

	タイトル【種目】	作者	出版社
バドミントン	ラブオールプレー 【バドミントン】	小瀬木麻美	ポプラ社
		水嶋亮は中学バドミントン部を引退後、強豪校 横浜湊高校へスカウトされる。全国連覇中の先輩や同期の仲間たちと厳しい練習に明け暮れ、着実に強くなっていく。「バドミントンが大好きだから」それだけで厳しい練習も、遊びや恋愛をする暇がなくても、楽しく充実した青春の時間が過ごせる。バドミントンに打ち込む少年たちのまっすぐなストーリー。 <ラブオールプレーシリーズ>風の生まれる場所、夢をつなぐ風になれ、君は輝く!		
バドミントン	マイナス・ヒーロー 【バドミントン】	落合由佳	講談社
		久能凪人は、バドミントンジュニアクラブ時代にクラブのエースで犬猿の仲の兄の航を打ち負かした女の子と中学に入学して再び出会った。その女の子、羽野海は実力がありながらも万年2位の「シルバーヒーロー」と呼ばれていた。ある日、凪人は羽野を優勝させるためのアドバイザーを引き受けることなる。凪人は、これまでのバドミントンの知識を駆使しながら羽野の力になろうとするが、なかなか優勝を勝ち取ることができない。凪人は、バドミントン部でもマネージャーとして入部するが、一部の部員との確執や自信喪失でバドミントン部を離れてしまう。しかし、「わたしを百パーセント信じてくれるのは、久能君だけ!」という羽野の言葉に再びやる気を取り戻す。そして迎える中学校最後の大会。凪人と羽野は最後の戦いに挑む。マイナスだらけの自分でも、誰かのマイナスをひっくり返すために陰で戦う。そんなヒーローになりたい。		
バレーボール	2．43 清陰高校男子バレー部①② 【バレーボール】	壁井ユカコ	集英社
		「バレーより面白いものなんて、他にないじゃないですか」 才能に恵まれるも周囲との軋轢を引き起こしてしまう灰島、抜群の身体能力を持ちながらも緊張すると全くダメになる黒羽、誰よりもバレーボールが好きなのに身長に恵まれない主将の小田。1日でも1分でも1秒でもバレーボールを続けたい。目指すは春高バレー。福井の田舎の弱小バレーボール部の闘いが始まる。「2．43」は男子バレーボールのネットの高さ。		
バスケットボール	ぼくたちのアリウープ【バスケットボール】	五十嵐貴久	PHP研究所
		名門高校の国分学園高校でバスケットボールがしたかったジュンペーは、成績が足りないのに強引に受験し奇跡的に合格してしまう。意気揚々と入部手続きをとるが、3年生の不祥事で3年生は全員退部、バスケットボール部は1年間対外試合禁止となっていた。さらに2年生たちは自分たちの学年以外信用できないと1年生の入部を認めない。何とか入部を認めてもらおうとジュンペーら1年生は2年生に食い下がる。入部を認める条件は、夏休み最後の日に2年生と試合をして勝つこと。ジュンペー達は2年生に勝つべく必死で練習に励む。 とにかくバスケットボール一色のストーリー。個性的なメンバーとコミカルなやり取りにサクサク読み進められます。高校時代の青春がココにある!		
ハンドボール	あざみ野高校女子送球部 【ハンドボール】	小瀬木麻美	ポプラ社
		小中学校でバスケットボールで活躍していた凛。もうチームスポーツはやらないと誓って高校へ進学したが、バンドボール部へ入ることに。日々の練習や強豪校との対戦を通じて、“送球”の名のごとくパスをつないで1点を積み重ねていくハンドボールの魅力に惹きこまれていく。多彩な攻撃、激しく入れ替わるポジション、絶妙なパスワーク、テンポよく臨場感溢れる描写で描かれています。		
ゴルフ	あなたに似たゴルファーたち 【ゴルフ】	伊集院静	文春文庫
		「ベストショットをしようとしてもほとんどがミスをする。そう考えるとゴルフはミスしている時、それで苦闘したり、憤怒している時がもっともゴルフらしいと言える。」(『最後のゴルフ』より)―そうは言っても、ショットが決まったときの快感は何物にも代えがたい。たまのゴルフを楽しみに頑張っている普通の人々の日常と人生、プレーの数々を描いた短編集です。		

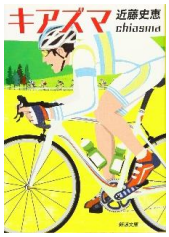
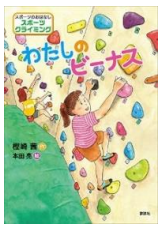
	タイトル【種目】	作者	出版社
ゴルフ	ライバル 【ゴルフ】	川上健一	PHP研究所
		清院高校女子ゴルフ部の葉奈と宇希恵は小学校からのゴルフ仲間で親友。全国レベルの宇希恵に対して葉奈はゴルフは大好きだが成績はいまひとつ。そんな葉奈に宇希恵は「ライバルはあんた」と言う。ある日、宇希恵にゴルファーとして致命的なことが起こる。何とか元の宇希恵に戻って欲しい。楽天的な葉奈は突拍子もない策を練る。 大好きなゴルフができる喜び、やっぱり楽しくなくっちゃ!	
水泳	快晴フライング 【水泳】	古内一絵	ポプラ社
		主将の事故死をきっかけに問題児だけが残った水泳部は愛好会への降格を言い渡される。これまで自分のことしか考えてこなかった龍一は主将として部を立て直すことに。そんな時、同じクラスで学校一の美少女がものすごいスイマーであることを知り水泳部へ誘うが彼女にはどうしようもない秘密があった。しかし、部員たちは彼女を受け入れ、そして市の大会での優勝を目指し団結していく。 少年少女たちは悩みや葛藤を抱えながらもお互いを認め合い、成長していく青春ストーリー。	
飛込み	DIVE！！①②③④ 【飛込み】	森 絵都	講談社
		赤字経営のクラブの存続条件は、オリンピック選手を出すこと。新しく来たコーチに中学生の知季は「ダイヤモンドの瞳」を持つ選手として見出される。厳しい練習を耐え、仲間やライバルたちと切磋琢磨しながオリンピック出場枠を争う。飛込み競技に青春を賭ける少年たちのひと夏の熱い物語。映画化された際に金沢市営総合プールで約2カ月間ロケが行われました。 「飛込王国石川」と言われている石川県民には、ぜひ、読んでいただきたい一冊です。	
空手	ストグレ！ 【空手】	小川智子	講談社
		空手が大好きな小学5年生の光希。転校先の近所の道場は廃れているが新たな仲間との出会いで一生懸命練習に励む。空手に対する誤解、仲間たちとの軋轢、クラスからの孤立など様々な苦難が待ち受けるが、「ストグレ魂」で乗り越え、仲間と共に心の成長を遂げる。 空手を通じた武道精神の教えがすばらしく、ぜひ子どもたちに読んで欲しい一冊です。	
空手	空手道ビジネスマンクラス練馬支部 【空手】	夢枕 獏	文春文庫
		40代の会社員木原は、ある夜、若い男がチンピラ達に絡まれている現場に出くわす。若い男は、空手の技でチンピラ達を倒し去っていったが、ボクサー崩れのチンピラ 尾形はその場面を見ていた木原を逆恨みし、後日、木原を襲撃し土下座させた。この土下座を会社の仲間にも知られることとなり、木原は屈辱に苛まれた。強くなりたい、木原は意を決して実戦空手のビジネスマンクラスに入門する。そこには、あの夜、チンピラ達を倒した若い男 今江が指導員としていた。空手の練習を通して気づく肉体の変化、そして共に汗を流す仲間たち。空手から始まった新しい人生に木原はどう生きていくのか。本当の強さとは何か。様々な人間関係とそれぞれが背負うもの。ドラマティックな展開を追う楽しさを十分に楽しめます。	
柔道	七帝柔道記 【柔道】	増田俊也	KADOKAWA
		「七帝柔道」とは、北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、大阪大学、京都大学、九州大学の七つの旧帝国大学にはるか昔から受け継がれてきた寝技中心の柔道である。主人公の増田俊也は、2浪の末北海道大学柔道部に入部する。そこでは「練習量がすべてを決定する」と言うごとく、辛く過酷な、時には残酷な練習が行われていた。北海道大学は、近年、七帝の中で最下位をさまよっていた。かつての栄光を取り戻すため、終わりのない過酷な練習は続いていく。努力の限界を超えても努力を重ねていく部員達。それでも努力は報われるとは限らない。しかし、七帝柔道の過酷な練習の中にこそ生きるためのすべてが詰まっている。先輩たちの思いを後輩たちに繋げていくこと、自分たちが流した汗を信じて。登場人物たちの人間臭さや柔道へのひたむきさに、なんとも泥臭い青春を感じる。爽やかさだけが青春ではないと知る一冊です。作者の増田俊也氏を始め、作中の登場人物は実在・実名で登場する。彼らのその後も気になるところである。	
弓道	たまごを持つように 【弓道】	まはら三桃	講談社
		弓道を通じて成長していく中学生たちの青春ストーリー。弓を引く動作の中に潜む心の動きや緊張感を巧みに描くことによって、メンタルの武道といわれる弓道の醍醐味を上手く表現しています。「真・善・美」を指標とする弓道についての所作や用語なども詳しく描かれており、物語を通じて「弓道」という武道を知るための一冊としても一読する価値はあります。	

	タイトル【種目】	作者	出版社
弓道	凛として弓を引く【弓道】	碧野　圭	講談社文庫
		高校進学と同時に名古屋から東京に引っ越してきた矢口楓は、人見知りでどこにでもいるような今どきの女の子。新学期が始まるまでの春休みにたまたま通りかかった神社の弓道場で、弓道着を着たちょっとカッコいい年上の男の子に弓道の体験会に誘われる。入学と同時に入ったテニス部を辞めてしまった後、体験会で一緒だった同級生の真田善美に半ば強引に誘われ弓道会に入会する。 弓道という初めて体験する武道に最初はちょっとした暇つぶしという気持ちで参加していたが、指導してくれる大人たちに武道の心や日常の振る舞いなどを教えられていく。最初は、馴染めなかった色々な考え方だったが、次第にひとつひとつが楓の心に染み込んでいく。色んな人の気持ちや支えによって、弓道の魅力に目覚め、心の成長を遂げていく。弓道について興味が惹かれる作品です。		
剣道	武士道シックスティーン【剣道】	誉田哲也	文春文庫
		五輪の書を愛読し、質実剛健を地で行く剣道一筋の香織、日本舞踊から剣道へ転向したお気楽な早苗。中学の小さな市民大会で香織は早苗に負けてしまう。高校で二人は同級生として再び出会い、香織は早苗を一歩的にライバルにしてしまう。正反対の二人だが剣道を通じて徐々に距離を縮めていく。 スポ根王道ストーリーだがテンポ良く楽しめる一冊です。 <同シリーズ>武士道セブンティーン、武士道エイティーン、武士道ジェネレーション		
剣道	君が描く空　帝都芸大剣道部【剣道】	里見　蘭	中公文庫
		帝都芸術大学で日本画を専攻する粟生野壮介は、剣道部部長として同じ大学で油絵を専攻する高杉唯を半年で初段に合格させるため指導することになった。明るく天然っぽい唯は、剣道どころか運動に関して全くの素人だったが、壮介は粘り強く基本から指導していた。しかし、唯は芸術家として天才的な才能を持っていたが複雑な生い立ちがあった。唯の指導を始めてしばらくして、壮介が密かに想いを寄せる法眼寺綾佳も初段を受験したいということで一緒に指導することになった。芸術大学でアートと剣道に打ち込む個性的な面々が学生生活の中で織りなす友情、恋愛、そして夢。苦難や悩み、葛藤を乗り越えた先に夢が待っている。夢を叶えるために挑戦し続けるアート系剣士たちの青春ストーリー。作者は、里見蘭さん。女性かと思いきや、実は男性です。しかし、まるで女性作家のような繊細な描写は、とても読みやすく、爽やかさが心の中を満たします。		
なぎなた	おとめの流儀。【なぎなた】	小嶋陽太郎	ポプラ社
		廃部寸前だったなぎなた部で部長が掲げた目標は「男子剣道部に勝つ!」ことだった。部員は1年生のさと子と部長の朝子以外は初心者ばかり。とんでもない目標に部員たちはとまどう。それぞれが、葛藤や反発、自信喪失などいくつもの困難に出会うが、厳しい練習を続けていくうちに心をひとつにしていく。登場人物の個性が強く、飽きずに最後まで一気に読めます。		
流鏑馬	流鏑馬ガール! 青森県立一本杉高校、一射必中!【流鏑馬】	相戸結衣	ポプラ社
		流鏑馬（やぶさめ）といえば馬上から的に向かって矢を射る神事ということは知っている方も多いでしょう。ところが、「競技流鏑馬」というとなかなかご存じないと思います。青森県十和田市、この物語の舞台である。桜流鏑馬、全日本流鏑馬選手権など流鏑馬が盛んな土地柄で、小学生から大人まで幅広い世代に流鏑馬は親しまれています。弓道を通じて知り合った二人の女子高生が、悩み、ぶつかり、自分にとっての流鏑馬を模索しながら成長していく姿を描いています。 YOUTUBEなどで、「桜流鏑馬」の動画を観てから読めば、より一層想像が広がります。一風変わったスポーツ小説ということでオススメしたい一冊です。		
相撲	セキタン！ぶちかましてオンリー・ユー【相撲】	須藤靖貴	講談社
		中学生の大関治は父親を病気で亡くし、剣道部を辞めて家の家事をこなし母親と弟を助けている。15歳の誕生日に行きつけの中華料理屋でナゾのお兄さんから「相撲部屋に入って力士になったら」と声をかけられる。怪しむ治だがナゾのお兄さんは「力士になれば金も稼げるし、女の子にもモテる」そして「横綱になれる」という。ナゾのお兄さんの出現で自分の進路に悩みぬいたが、関取になることを決心し相撲部屋に入った。目標は二十歳までに関取になること。家族のため大好きなあの子のため、厳しい稽古に耐え、さらに自主練習にも励んだ。ナゾのお兄さんは何者？本当に横綱になれるのか？揺れる思春期を相撲に賭けた少年のひたむきで前向きな物語。		

	タイトル【種目】	作者	出版社
相撲	すもうガールズ 【相撲】	鹿目けい子	幻冬舎文庫
		星川遥　茶髪の女子高校生。小学生の時、ちょっとしたことからイジメに遭ったが、同じクラスの島崎乙葉に誘われて相撲を始めることに。「強くなりたい」その気持ちはいつしか「相撲が楽しい」に変わっていった。中学受験、父親の会社の倒産、転校、両親の別居と遥の環境は本人の意思とは関係なく変わっていく。遥は髪を染め、まったく希望のない高校生活を送っていた。ある日、教室で声をかけられる。乙葉だった。過去を封印してきた遥にとって乙葉は迷惑な存在となっていたが、成り行きで女子相撲部に仮入部してしまう。徐々に心を近づけていく遥と乙葉。しかし、遥にとって相撲は楽しいものではなくなっていた。悩む遥にかつての師匠は「自分がない」と厳しい言葉を投げかける。揺れる気持ちの中、秋の大会が迫ってきた。自分を取り戻すため、自信を取り戻すため、遥は必死に稽古に打ち込む。恋に友情に、そして相撲への情熱。女子相撲というマイナー競技のなかでも熱くなれる想いがある。努力し続けることで変わることが、きっとある。そう信じて、今日も四股を踏む。		
ボクシング	空の拳　【ボクシング】	角田光代	日本経済新聞出版社
		文芸誌志望の雑誌編集者、空也が配属されたのはボクシング専門誌。全く興味がなかったボクシング、嫌々取材に訪れたジムで勧誘されなぜか入会してしまう。「強いから勝つんじゃない、勝つから強いんだ」―空也と、ジムに集う若きボクサーたちの成長と闘いを描いた青春拳闘小説です。		
ボクシング	セコンドアウト　【ボクシング】	須藤靖貴	小学館
		高校生の早生龍平（ワセ・リュウヘイ）は170センチ120キロ。太りすぎの体を持て余していた。ある日、スポーツ記者である伯父の俊作からボクシングを勧められる。迷いながら日々を過ごしていた早生は、中学生の不良に襲われ大切なマウンテンバイクを奪われてしまう。襲われたことを誰にも言えず抱え込んでしまうが、ボクシングを始める決意を固める。これまで「でぶ」という劣等感を茶化すことで自分をごまかしてきた。いまだかつて経験したことのないハードなトレーニングを頑張る早生。ボクシングを通じて成長していくこと、スポーツが教えてくれるとても大切なこと。どんな自分であっても、自分を大切にすること。そんなことを気づかせてくれる青春スポーツ小説です。		
アイススケート	銀盤のトレース　【フィギュアスケート】	碧野　圭	実業之日本社
		スケート王国、名古屋のスケートクラブに通うスケートが大好きな朱里。しかし、お金のかかるスケートを習うことに両親は良い顔をしない。大会で3位までに入るかバッジテスト5級に合格するかがスケートを続けられる条件にされる。どちらも叶わなかったが、なんとかスケートを続けられることに。朱里は色々な人に支えられながら、少しずつ上達する。目指すは中部ブロック大会。フィギュアスケートに自分の可能性を賭ける等身大の女の子のストーリー。とても読みやすいです。		
アイススケート	スケートボーイズ　【フィギュアスケート】	碧野　圭	実業之日本社
		大学生の和馬は、一時は強化選手に選ばれトップ選手へと駆け上がるはずだったが、2度のケガで1年間スケートを離れることに。その間にライバルたちは、どんどん活躍していく。もうライバルたちには追いつけないことに悩むが、自分なりの夢に向かって再び努力を始める。テレビで映る世界だけがフィギュアスケートではなく、様々な形があることも描かれています。		
駅伝	タスキメシ　【駅伝】	額賀　澪	小学館文庫
		兄　眞家早馬は高校陸上部の長距離走トップ選手だったが、膝の故障のリハビリ中に生物教師の担任の差し金で料理研究部の井坂都と出会う。怪我を理由に陸上から離れようとする早馬は都に料理を教えてもらうことで心の穴を埋めようとしていた。同じく長距離走選手の早馬の弟の春馬はそんな兄を見て苛立っていた。そして早馬と同級生で陸上部キャプテンの助川亮介も早馬がランナーとして戻ってくることを願っていた。都との料理を通じて少しずつ自分を受け入れていく早馬。都も早馬と一緒に料理を作ることで自分の心を安定させていた。早馬が陸上を離れる本当の理由、そして兄の怪我を自分のせいだと思い詰める春馬、仲間として友として早馬の気持ちが痛いほど分かる亮介、そして料理というつながりで早馬の人生に影響を与える都。高校駅伝、箱根駅伝を舞台にそれぞれの思いが交錯し、陸上へかける情熱やお互いを認め合う気持ちが溢れてくる。自分の気持ちに正直になれたとき、苦しみも後悔も解き放たれる。		

	タイトル【種目】	作者	出版社
駅伝	あと少し、もう少し 【駅伝】	瀬尾まいこ	新潮文庫
		中学校最後の駅伝に臨む、桝井、設楽、俊介、太田、渡部、ジローの6人。寄せ集めチームで、しかも顧問は陸上素人の美術教師。このチームで伝統となっている県大会出場を目指す。それぞれが走ることや仲間への思いを胸に練習に励む。6人の心情を襷を繋ぐように展開する物語に惹きこまれます。あと少し、もう少しみんなと走りたい。読むと必ず走りたくなります。	
マラソン	監督が好き 【マラソン】	須藤靖貴	ハルキ文庫
		元トップランナーの伴勝彦は、現役引退後、実業団女子マラソンチームの監督として選手の育成に力を注いでいた。しかし、期待されていたリオオリンピックでは所属選手が途中棄権、次年の国際大会では他チームから引き抜いてきた選手だったが入賞すら叶わなかった。監督就任時に、かつての恩師から「オリンピックで金メダルを獲れる監督は、おまえだけしかいない」。その言葉を信じてやってきたが、目指す金メダルへは届かなかった。そんな中、バレーボールからマラソンに転向してきた恩師の孫娘の齊田恭子が入部し、2020東京オリンピックを目指す。歯に衣着せぬ言動の恭子に戸惑う伴だったが、自身のすべてを賭けて指導にあたる。そして、ついに2020東京オリンピック 女子マラソンのスタートが切られた。8月の過酷な暑さの中でのレースで伴と恭子はどのように戦うのか。感動のフィナーレが待っている、女子マラソン小説。	
総合	オリンピックへ行こう 【卓球、競歩、ブラインドサッカー】	真保裕一	講談社
		世界最高のスポーツの祭典、オリンピック。アスリートなら誰でも憧れる舞台で活躍できるのはほんのわずかの選手のみ。憧れの舞台に立ちたい。その舞台を勝ち取るためには努力、才能を超えた何かが必要なのか。本書では3種目を取り上げているが、卓球とはこうも緻密な戦略で戦っているのか。まるで何手先も読む将棋のよう。次への展開に心が躍る。 競歩は輪島市での大会が舞台になっています。	
総合	空への助走 福蜂工業高校運動部 【バレーボール、陸上、柔道】	壁井ユカコ	集英社
		2.43 清陰高校バレーボール部代表戦編に登場する福蜂工業高校のスピンオフ的ストーリー。バレーボール部、陸上部、柔道部、釣り部・・・高校部活動を舞台に高校生たちの真っ直ぐな青春を描く。楽しいだけでなく、葛藤や挫折を経験するからこそ一歩一歩前に進める。本気で頑張っているからこそ、勝てば嬉しいし負ければ悔しい。一度きりの高校生活、恋に友情、勉強に部活動、限られた時間だが、とても素敵なかけがえのない時間を彼らは過ごしていく。	
競馬	風の向こうへ駆け抜けろ 【競馬】	古内一絵	小学館
		新人女性ジョッキーの瑞穂は「藻屑の漂流先」と呼ばれる地方の厩舎に配属となる。調教師も厩務員もまさに藻屑のような人たちばかり。必死で勝利をあげようと奮闘する瑞穂だが思うようにいかない。しかし、瑞穂の情熱で厩舎の人たちの心がひとつになっていく。そして、魚目の馬と出会い、地方から中央へ挑む。馬を、競馬を愛する人たちの姿に力をもらえる一冊です。 <同シリーズ> 蒼のファンファーレ	
射撃	アスリーツ 【射撃】	あさのあつこ	中央公論新社
		「Match firing start」 試合開始。空気が張り詰め、バシューン、バシューンとビームライフルの射撃音が響く。広島県の超進学校 大明学園高校の結城沙那は親友の松前花奈に誘われて、全く経験のない射撃部に入部した。部員の獲得に苦労していた射撃部の面々は2人を大歓迎で迎えた。沙那は中学時代の陸上部ハードル競技の試合でミスによる怪我をしたことから競技をやめてしまい、そのことがずっと心の傷となっていた。ところが、入部して数か月後の練習試合で広島県チャンピオンの伊藤真帆に迫る成績を収める。そして、全国大会予選の県大会で真帆に次ぐ2位で全国大会出場を決めた。沙耶は、この未知の競技の魅力とライフルを構えて標的に向かいあった時の昂ぶりに、ハードルでは得られなかったものを射撃では得られるような気がした。自分の弱さを克服したい、ライフルと共に前に進みたい、そしてもっと上を目指したい、自分の射撃に納得するため前に進むことを決意した。嫉妬、友情、心のすれ違い、様々な感情に翻弄されながらもアスリートとなるため未来に向かう少女の青春グラフティ。	

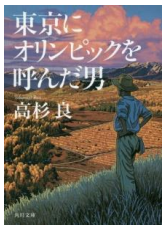
	タイトル【種目】	作者	出版社
カーリング	青森ドロップキッカーズ 【カーリング】	森沢明夫	小学館
		青森を舞台に繰り広げられる青春カーリング小説。いじめられっ子の宏海、中途半端な不良の雄大、不遇なアスリート姉妹の柚香と陽香。それぞれが、苦しみを乗り越え、自分の殻を破って、カーリング通じて成長していく姿が清々しい。「氷上のチェス」と呼ばれるカーリングの魅力をこの小説の中で存分に楽しめる。読めば必ずカーリングをやってみたくなりますよ！		
トランポリン	頼むから、ほっといてくれ 【トランポリン】	桂　望実	幻冬舎
		トランポリンでオリンピックを目指す選手とそのコーチたち。選手たちはライバルたちへの嫉妬や羨望、焦燥、不安などの感情と葛藤しながら切磋琢磨している。そして選手であればいつか訪れる「引退」。その時を選手たちはどんな気持ちで受け入れるのか。孤独やプレッシャーと戦うアスリートたちの懸命な姿に共感できる一冊です。		
ウエイトリフティング	空色バウムクーヘン 【ウエイトリフティング】	吉野万理子	徳間書店
		鏡池若葉は、お嬢様だがひそかにお笑い芸人になることを夢見ていた。高校入学後、同じクラスで体格のよい大月弥生とコンビを組むことに成功した若葉だが、弥生と共にウエイトリフティング部に入部してしまう。体重42キロの若葉だが、取り敢えず部活を続けながらお笑い芸人への道を狙っていた。すぐに退部しようと思っていたのに、気が付いたらウエイトリフティングが好きになっていた。決してトップにはなれないけれど、記録が1キロ増えるたびに自分が変わっていくこの競技に胸が熱くなっていた。部活の仲間たち、幼なじみの健太、そして弥生、みんなと一緒にいたいから、仲間の声が力をくれる。重さをかさねるたび大人になっていく少女たちの青春スポーツ小説。		
モーグルスキー	モーグルビート！ 【モーグルスキー】	工藤純子	ポプラ社
		雪深い山村に生まれた小学6年生の一子は、雪山で自由にスキーを楽しんでいいた。しかし、近頃はいくら滑っても気持ちが満たされない。父親がスキーで亡くなったと聞かされており、母親は一子がスキーをすることにいい顔をしない。ある日、遠い親せきにあたる美鈴が一子の家に冬の間だけとのことで一緒に住むことになるが、お互い仲良くできない。実は美鈴はモーグルスキー選手で、この村にはモーグルの特訓のためにやって来たのだった。ライバル心や美鈴の華麗な演技に刺激された一子はモーグルスキーを始める。モーグルに自分の夢と希望を見つけた一子は美鈴に勝つため、そして父に近づくためモーグルの魅力にとりつかれていく。		
ボート	がんばっていきまっしょい 【ボート】	敷村良子	幻冬舎
		進学校の松山東高校に入学した悦子は、入学早々、授業にはついていけず、落ちこぼれの劣等生になっていた。悦子は、入学前に見たボートの練習を思い出し、ボート部へ入部を希望するが、女子の部はなかった。男子部員の練習に参加させてもらいながら、女子部復活のため部員集めに奔走する悦子。そして、ヒメ、ダッコ、リー、イモッチの4人が入部するが、全員運動部の経験がない初心者ばかりだった。日に焼け、手に豆を作りながらも楽しく、厳しい練習のなかで5人はボートの魅力にハマっていく。高校生という多感な時期にボートに打ち込み、悩み、焦り、挫折にもがきながら自分の居場所を必死で探そうとする。誰もが経験する高校時代の未熟さから大人へと旅立とうとする「あの頃」への思いが切なく心に浮かぶ青春小説。		
セパタクロー	セパ！【セパタクロー】	虹山つるみ	ポプラ社
		「セパタクロー」って聞いたことありますか？「セパ」はマレー語で「蹴る」、「タクロー」はタイ語で「（籐で編んだ）ボール」という意味の合成語で、その名のとおり、ボールを蹴りあうスポーツです。主に3人対3人でネットを挟んで手や腕を使わず足や頭を使って相手コートに返しあい得点を競うスポーツです。日本では、競技人口約2,000人のマイナースポーツですが、「空中の格闘技」と言われるくらい足技による空中戦やネット際での攻防、サーブでの駆け引きなどスリリングで迫力がある試合展開です。この物語は、不器用で2歳上の優秀な兄と比較され、部活でもいじめに遭い不登校となった中学生の翔（カケル）がセパタクローが得意な小学生のレンに出会い、セパタクローの魅力に目覚めていきます。そして、セパタクローを通じてできた仲間たちと一生懸命練習に励み、試合での勝利を目指します。物語の中で、セパタクローのルールや技、動き方などが自然な形で描かれており、全くルールが分からない方でもストーリーごと楽しめます。マイナースポーツでありながらも魅力たっぷりのセパタクローの世界をちょっと覗いてみませんか？		

	タイトル【種目】	作者	出版社
クライミング	空よりも遠く、のびやかに 【クライミング】	川端裕人	集英社文庫
		坂上瞬、万葉高校1年生。ある事情から、部活動には入らず帰宅部を決め込んでいたが、気になる同級生の岩月花音が入部した「地学部」に入部することに。高校時代を”平熱（ノーマルヒート）”で過ごそうとしていた瞬だったが、地学だけではなく”クライミング”にもハマり、平熱ではいられないほどの青春を感じることになる。地学には、オリンピック種目のクライミングと同様「国際地学オリンピック」があり、知と地のアスリートでもある。一方、クライミングは地学に近いスポーツで、地学性の塊である。青春小説の定番である恋、友情、仲間に加え、クライミング×地学のコラボーレーションを思いっきり楽しめる、知的スポーツ小説。 「部活って、いいよね」	
スキージャンプ	向かい風で飛べ！ 【スキージャンプ】	乾　ルカ	中公文庫
		スキージャンプの天才少女　理子に誘われてジャンプを始めたさつき。大空を飛ぶ楽しさに魅了されたさつきはどんどん記録を伸ばしていく。一方、理子は中学生になってから思うように飛べなくなっていた。上手く飛べない自分に何の価値も見出せなくなってしまった理子。「向かい風は、大きく飛ぶためのチャンスなんだよ」ジャンプを愛する少女たちの成長を描く。	
自転車	キアズマ 【自転車競技】	近藤史恵	新潮社
		大学1年生の岸田正樹は、自転車部の櫻井とのちょっとしたトラブルが原因で部長の村上が大怪我をしたことで、1年間という約束で自転車部に入部することになる。 小中高と柔道をやっていた正樹は、過去の事件で、ある理由から人を傷つけるスポーツにはもう関わりたくないと思っていた。しかし、競技用の自転車で走る魅力にとりつかれ、自転車競技にのめりこんでいく。そして、この競技に向いていたのか、実力はぐんぐん上がり、わずか数カ月でエース級の櫻井にも劣らない選手になっていった。しかし、レース中の落車事故に巻き込まれ、正樹も櫻井も大怪我をし、いつの間にか人を傷つけるスポーツに夢中になっている自分に気づいてしまう。それぞれが背負う重き過去、それでも走り続ける理由がある。自分との葛藤、仲間とのぶつかり合い、過去を受け入れ、みんな成長していく。	
男子ソフトボール	ソフトボーイ	南々井　梢	徳間書店
		「全国大会ぞ！」 佐賀県の高校生　野口の突拍子もない思い付きに、またも巻き込まれる同級生の鬼塚。 男子ソフトボール部がゼロの佐賀県でソフトボール部を立ち上げれば、無条件で全国大会に行け、ヒーローになれるという野口の思い付きから始まった。 集まったメンバーは、ソフトボールとは無縁の個性的なメンバーばかり。不純な動機でスタートしたソフトボール部だが、野口のロ車に乗せられたメンバーは、次第にソフトボールの楽しさを感じ始めていく。野口の破天荒な言動に振り回されながらも、鬼塚もソフトボールにハマっていく。 本当に全国大会に行けるのか！？ 田舎の高校生たちの純粋な青春ストーリー。読めば、きっとあの頃に帰りたくなります。	
スポーツ全般	スポーツのおはなしシリーズ		講談社
		<スポーツのおはなしシリーズ>※小学生中級 東京2020オリンピック種目の、陸上（リレー）、空手、卓球、柔道、サーフィン、スポーツクライミング、テニス、バドミントン、野球、体操の各種目ごとの小説10冊です。 文字が大きく、漢字にはルビがふってあるので小学生でも読みやすく、ページ数も1冊につき約70ページほどなので色々なスポーツの物語を無理なく、飽きずに楽しめます。 また、最後のページにはそれぞれの種目の特徴やオリンピックを楽しむための解説が載っており、より一層スポーツに興味を持つことができると思います。 スポーツを題材とした親しみやすさで、お子さんの読書のキッカケづくりにぴったりの本です。	

	タイトル【種目】	作者	出版社
スポーツ施設	五輪五代記　純国産のスポーツ施設を造った男たち【スポーツ施設】	安斉幸彦	幻冬舎

日本でもスポーツが国民に受け入れられ始めた明治初期に、文部省から土木職人　谷川武次郎に日本初の「ベースボール場」建設が持ちかけられた。英語教師ホーレス・ウィルソンの力を借りながら、武次郎は見事に素晴らしいフィールドを造り上げた。日本のスポーツ施設建設の幕開けであった。その後、スポーツ施設建設は、武次郎から息子の竹吉に引き継がれ、時代を経ながら2020年東京オリンピックへ向けて5代目の武志へと意志は受け継がれていきます。スポーツ施設建設に情熱をかけた、谷川一族の熱き思い。そして、この物語の中心となる戦後のアメリカ支配の中でのテニスコート建設の話では、スポーツを愛するマッカーサーのスポーツに対する真摯な思いと日本の復興を願う気持ちに感動を覚えます。スポーツ施設建設に人生をかけた男たちのロマンを感じてください。

	東京にオリンピックを呼んだ男	高杉　良	KADOKAWA
その他			



経済小説の雄　高杉良が描くノンフィクション小説。日系二世のアメリカ人　フレッド・和田勇は幼き頃の苦労を乗り越え、青果店を営んでいたが太平洋戦争が始まり肩身の狭い思いをしていた。戦争が終わり、敗戦に打ちひしがれる日本だが、国際水泳連盟に復帰した日本水泳連盟は全米水泳選手権大会に日本選手を派遣することとなった。その選手たちの宿舎を求める新聞記事を見て、和田は私費ですべての選手を大会期間中、自宅に滞在させた。フジヤマのトビウオと呼ばれることとなる古橋、橋爪ら選手たちは、世界新記録を出すなどアメリカ人を驚かせた。古橋たちの活躍により「ジャップ」と蔑まれていた日系人たちは「ジャパニーズ」と呼ばれるようになる。これが和田とスポーツの初めのつながりであった。そして、ついに日本はオリンピック開催に名乗りを挙げることになった。和田は、持ち前の面倒見の良さを発揮し、中南米のオリンピック委員の得票を目指し、各国を行脚した。その甲斐あって東京は断トツの得票数でオリンピック開催地に決まった。和田は、東京オリンピックを実現させただけではなく、実業家として、祖国　日本を愛する一人として、アメリカと日本の懸け橋となって日米の交流を発展させた。今の日米関係の礎を築いた偉大な人物としてこれからも語り継がれたい。

金沢の伝統集団演技「若い力の演技」

金沢市スポーツ遺産に認定！

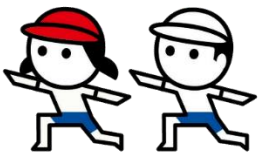
昭和22年に開催された第2回石川国体で作られた「若い力」の歌と演技は、70年以上にわたり金沢市のスポーツ文化の伝統として受け継がれています。
この「若い力の演技」が、金沢市のスポーツ発展に寄与した事実として「金沢市スポーツ遺産」に認定されました。

コロナ禍を乗り越えるため、「若い力」の演技で金沢から全国に”元気”を発信します！

YouTubeチャンネルで演技動画配信

https://www.youtube.com/watch?v=i65zKNaIhNg

競え！青春！



若い力プロジェクト　検索

https://wp.kanazawa-sports.jp/

若い力プロジェクト × ほくりくアイドル部

金沢市図書館　検索

かなざわスポーツねっと　検索

主催
金沢市立泉野図書館　TEL(076)280-2345
公益財団法人 金沢市スポーツ事業団　TEL(076)247-9018